



くらまし あいな
倉増 あい菜 (竜王中学校 2 年)

オーストラリアの食事はほぼ毎食パンでした。水が貴重な国なのでお米を育てる水がないのかもしれないと思いました。意外だったのは、コアラがユーカリの匂いがして少し臭かったこと。オーストラリアの人はいつも大きいリアクションをしてくれて話やすかったし、話したいことが伝わると自分の英語に自信を持てるようになりました。この経験を生かして、たくさんの人と話していきたいです。



おりぐち りおん
折口 莉音 (小野田中学校 3 年)

オーストラリアは給食がなく、昼食はサンドイッチやお菓子でした。栄養を考えられた食事を毎日違うメニューで食べられる給食がどれだけありがたいことが再認識しました。パディは日本語を勉強していたので、お互いに言葉を教え合いました。日常の中で、私を家族の一員として受け入れてくれたことが嬉しかったです。もっと語学力を磨き、自分の気持ちを伝えられるようになりたいです。



いしかわ さや
石川 紗夜 (高千帆中学校 3 年)

車では常に窓を開けて音楽を流し、味わったことのない海外感にワクワクしました。また、部屋のドアを開めると心に距離ができるという理由でドアは常に開けていました。生活の違いに驚きながらもその違いを楽しむことができました。自信が持てず緊張しやすい性格なので不安だったけど、勇気を出して笑顔で話しかけたら会話が進み、表情は良くも悪くも伝染すると学びました。この経験を生かして成長し続けたいです。



しょうじ ななみ
正司 七美 (高千帆中学校 3 年)

食事の量が多く、スモールサイズでも日本の大盛りくらいの量でした。動物園でコアラに触れる等、オーストラリアでしかできない体験ができました。また、アボリジニのダンスを見せてもらい、昔から受け継がれている大切な文化なんだなと思いました。そして、私が日本について説明できることが少ないことに気付きました。まずは自分の国のことを知り、他国のことも日本のことも勉強したいと思いました。



たけもと りこ
竹本 理瑚 (高千帆中学校 3 年)

学校では中学生が専門的なビジネスやプログラミングについて学んでいる、ランチタイムが 2 回あったり、下校時間が早かったり、日本と違うことが多かったです。スーパーでは何もかもがビッグサイズ。家も広くて部屋数も多く、結局最終日までに全部把握しきれませんでした。日本が好きと言ってくれる人が多くて嬉しかったし、なんでも「いいね!」と言ってくれる人が多いので自分に自信がつけました。



はせがわ ももこ
長谷川 桃子 (高千帆中学校 3 年)

周りが英語ばかりで、本当にオーストラリアにいるんだと実感しました。みんな優しく面白い人ばかりで、仲良くなった人たちは今でも連絡を取り合っています。ホストファミリーとは音楽が好きという共通点があり、長時間のドライブもみんなで熱唱しながら楽しむことができました。本当の家族のように接してくれてとても幸せでした。お別れの時には涙が止まらなかったけど、感謝の気持ちでいっぱいです。



やまね あいと
山根 蒼士 (厚狭中学校 2 年)

できるだけ多くの人に話しかけたり、手を振ったりしてみました。するといろいろな人が挨拶をしてくれたり、手を振り返したりしてくれました。何をしても失敗を恐れずチャレンジすることが大事だと思いました。ホストファミリーは出会ったときからいつも優しく接してくれて寄り添ってくれる最高の家族でした。学校から帰った後も趣味を共有してくれたり、一緒に運動に誘ってくれたり、毎日楽しかったです。



こばしがわ ゆり
小橋川 友梨 (埴生中学校 2 年)

オーストラリアの学校は自由だったけど、先生の話の間になかったり、反抗したりする生徒を見かけませんでした。日本は細かいルールがあり、オーストラリアは個性を生かす。どちらもそれぞれの良さがあるのだらうと思いました。フレンドリーで優しい人が多く、「誰も笑わないから大丈夫」と信じて笑顔で英語を話すことができました。全てが初めての世界で精一杯頑張り抜くことができ、私の中の自信に繋がりました。